



東京都議会議員 自由民主党 (港区選出)

かんの弘一 活動レポート



副職資料

編集・発行 かんの弘一事務所

2020年にむけ、いよいよ本格始動!!

早いもので、私が都議会議員としての活動をスタートして一年余りが経ちました。

本年第一回定例会においては、初の一般質問に立ち、就任直後の舛添知事や各局長に対し、臨海部の災害対策強化をはじめ、待ったなしで取り組むべき東京都政の課題についての質疑を行いました。

都議会自民党としても、昨年の選挙で掲げた政策集「東京を世界で一番の都市に！」実現のため、5つの政策推進本部を設け、これまで政策の進行管理と確実な実行を図ってまいりました。そして各政策推進本部での活発な議論を経て、昨年12月には都に対し具体的かつ実効性の高い政策提言を行い、さらに本年7月には舛添新都政における長期的視点やこれまでの取組みや議論を踏まえた改訂版の提言を行うなど、着実に政策実現への取り組みを進め、

遅れていた、2020年オリンピック・パラリンピック開催時の東京都と、今から10年後の2024年の東京の姿を描いた長期ビジョンの策定も舛添知事のもと、ようやくまとまりつつあります。

このように東京が大きく躍動するなか、私も本年8月1日から都議会自民党初の女性幹事長、村上英子幹事長の下で副幹事長を務めることとなりました。現在執行部の一員として重責に身の引き締まる思いで日々の職務に取り組んでおります。

このような機会を与えられたのもひとえに、皆様方のご支援の賜物であり、心から感謝申し上げますとともに、今後も皆様のご意見を伺いながら、都政発展のため邁進して参る所存ですので、変わらぬご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

東京都議会議員 菅野 弘一

かんの弘一 活動 Topics



ゆりかもめ新型車両7300系試乗会
先端技術がつまった、ゆりかもめの新型車両に試乗。



経済港湾委員会 視察(大島・利島)
大島の被災状況、利島の橋樑の修復状況を視察。



都議会、はじめての一般質問
防災、青少年問題、産業振興等を質問。(詳しくは裏面)



環状2号線(新橋-虎ノ門)開通式
特例道路占拠費を払、ジャンゼリゼ通りのような街づくり。



都議会マレーシア行政調査
東京都下水道局の技術を活かした整備事業の視察。



経済港湾委員会 視察(高松市・松山市)
丸亀商店街(商店街活性化)、松山市中央市場等を視察。



イージス艦「きりしま」視察(超党派議員連)
弾道ミサイルからの首都防衛についてお話を伺う。



虎ノ門ヒルズ オープニングセレモニー
東京で2番目に高いビル(実質1番)が完成。



「トウキョウもっと元気計画研究所」出演。
TVで「観光と環境美化」をテーマに講演。



オリンピック・パラリンピック会場予定地視察
五輪後まで見えた建設計画について説明を受ける。



多摩川水質改善の取り組み(アコの試食会)
水質改善の成果確認の為、流域4地点のアコを試食。



東京都の総合防災訓練を参観
M7.3の直下型地震の想定、本格的な防災訓練。

もっと東京を
良くしたい!

かんの弘一
プロフィール

- 平成25年6月 東京都議会議員に当選。現在、都市整備委員会所属。
- 港区議会議員4期(平成11~25年)、前港区議会議長(平成23~25年)。
- 昭和33年12月生まれ 港区立白金小学校/港区立高松中学校/日本大学法学部 卒。

3月5日の平成26年第1回定例会で初めての一般質問を行いました。

1. 津波高潮対策について

- 首都機能への影響が大きく、また切迫性の高い「首都直下型地震」に備えての東京港の津波・高潮対策の推進について知事の所見を伺う。

(知事答弁)

首都東京の信用力を高める上で安全の確保は重要。いつ発生するかわからない首都直下地震などに備えるため、これまでの対策を見直し、防潮堤や水門の耐震性の強化を図るなど、地震、津波、高潮対策にスピード感を持って取り組み、強力に推進してまいります。

- 海岸保全施設(防潮堤・水門等)の現在の取り組みと今後の対応について伺う。

(港湾局長答弁)

平成24年12月に策定した新たな整備計画に基づき、早急確実に防潮堤、水門等の整備を推進していく。沿岸部の第一線を守る防潮堤や水門については、2020年までに耐震性を強化する。

2. 外国人の生活環境整備について

- 特区制度を活用した外国企業誘致のための、外国人の生活環境(医療、子育て等)整備のとりくみについて所見を伺う。

(知事本局長答弁)

東京の国際競争力の強化に向け外国企業誘致は重要。今後も医療、子育て等の支援を行い、国際的ビジネス拠点としての東京の魅力を高めていく。

3. 都立文化施設の活用について

- 都立文化施設の中には改修予定の施設がある。劣化更新だけでなく、より一層施設の魅力を向上させることが重要と考えるが、都はどのような取り組みを展開していくのか。

(生活文化局長答弁)

各文化施設の改修に当たって施設設備等の経年劣化への対応を図るだけでなく、時代のニーズに応え施設の一層の魅力向上を図ることが大切。また2020年の東京五輪の開催も視野に入れ、多言語化、無料WiFiスポットの整備を図る。

4. 青少年施策について

- 青少年のネット依存対策について、都としてどのようなネット依存の対策を行うのか所見を伺う。

(青少年・治安対策本部長答弁)

東京都青少年問題協議会からの提言を受け、啓発リーフレットの作成やネット依存の実態調査を行うほか、ネットトラブルの相談対応力を向上するため、研修を実施する。また、家庭や学校での自主ルールづくりを支援する。

- LINE等スマートフォン無料通話アプリに関する問題、中高生のネット依存、ネットいじめ等についてどのように対応していくのか所見を伺う。

(青少年・治安対策本部長答弁)

この問題については青少年自身がリスクを自覚し、情報モラルとメディアリテラシーを身につけることが必要。都は問題に精通した講師を中学校・高校へ派遣し生徒の問題意識を啓発し自主ルール作り支援に取り組む。

5. 産業振興について

- 優れた技術・製品を有する都内中小企業の海外展開に関する支援について伺う。

(産業労働局長答弁)

従来行ってきた商社OBを活用した支援に加え、現地拠点支援アドバイザーの配置やアジア地域の集客力の高い展示会の出展ゾーンを確保し中小企業の製品技術を一体的にアピールするなど都内中小企業を支援していく。

- ものづくり産業への支援、特に中小の製造業が都内で操業を続けていくための支援策について伺う。

(産業労働局長答弁)

平成26年度より、中小製造業が都内で操業を続けることができるよう、工場の改修や都内での移転等について支援を行う都内ものづくり企業立地継続支援事業を開始する。具体的には、地域環境に配慮して工場の防音、防臭工事を行う企業や、工場の建てかえに当たり、都内に一時移転先となる工場を借りる企業などに対し、区市町村との連携のもと、経費の四分之三を助成する。

6. 雇用・就業対策について

- 五輪関連施設整備を初め、耐震化などの防災対策やインフラの維持管理、マンションの老朽化対策など、一層の建設需要が見込まれる現状、都の建設技能人材の育成について伺う。

(産業労働局長答弁)

東京の産業を支える人材を育成するには、企業のニーズに応えた職業訓練を展開することが重要。従来の職業訓練に加え、現場のニーズが高い鉄筋工と型枠大工の養成に向け、実践的な技能習得と、溶接や小型クレーン等の関連資格の取得を内容とする職業訓練を、来年度220名規模で実施するなど建設現場で求められる人材の育成を図る。

紙面のスペースの関係上、質問と答弁は要約したものを掲載いたしました。全文は「東京都議会ネットリポート」に掲載されておりますので是非ご覧ください。

<http://www.gikai.metro.tokyo.jp/netreport/2014/report02/12.html>